

2010.11.5訪問

テントのことならお任せ！ 店舗軒先のテント以外にオーニング、間仕切りカーテンも受け賜ります！



青年部員の 事業所に行きつた 聞いてきた

第24回 加藤テント商会

今回訪問させていただいたのは、わが広報委員の加藤テント商会さんに伺いました。彼は少々地味で優しい感じの風貌に見えますが仕事を語らせると、意外に熱心に語ってくれました。

(取材、文・金森 隆志)



訪問ついで。

あつたかいコーヒーを差し出していただいた加藤さん。現仕事について10年のキャリアになるそう。
また、以前は看板屋の仕事をしていたため、今の仕事にうまくリンクさせているそうです。



スラリと並ぶ生地
の反物。こういった生地を高周波ミシンで張の合わせ、骨組みに合うよう施していく。

「モノのシフト」をどう教えるべきか

ひたひたと思ったことか。

施工後、お客様に感動されることはモチロン、お得意さまに「良い仕事」と、満足されたときはこの仕事をしていて良かったと常に思っていることだそう。
ツライことか。

うれしいことの裏返しに、お客様からのクレームや、お得意様からの指摘がツライそう。ただし、迅速に対応できるリペア術も長けているそう、その辺りが職人気質である。
仕事を通って学んだことか。

テント職人以前に看板のお仕事にも経験のある加藤さん、双方をうまく融合させて独自のモノづくりに常に精進している。

お客様とのコミュニケーションは、

ニーズが昔とくらべて違いがあり（店舗の屋号入りテントはだいぶ減っている）こちらから「こういったテントが主流ですよ」などいろいろな提案をうけているそう。

これからの加藤テント商会の展望は、

不況の影響か、全体的に低調な業界でもあるそう、現在、小物作成（トートバッグなどのかばん類）も作成している。現にいろいろなテント生地で工場にたくさんのかばんが作られていた。こういった作業を手の空いているうちに行い、より発展を遂げていきたいとのこと。テント生地なので、耐久性、耐水性はモチロン、ちょっと目線をかえたモノづくりを検討していきたいとのこと。

取材にお邪魔して一言

淡々と自分の仕事について語っていただいた加藤さん。その淡々とした語りのなかには職人氣質が詰まっていて、我々取材班が理解不能な専門知識も多くあったと思いました。しかし、テント生地、縫合、高周波ミシンでの溶着という作業はテントだけでなく、ほかのものにも活かせることができる無限の可能性を秘めていると感じました。そんなことを取材班が加藤さんに話しかけると、「こんなこともできますよ〜」なんて、テント生地で作ったかばん（エコバックに最適な大きさのかばん）を何十個も作成していた。釣りが好きな私は、「レインウェアとかはつくれないの?」なんてちょっと無茶を言ったりしちゃいました。防水、丈夫なテント生地で作成して面白いものはたくさんあるに違いない!

加藤テント商会さんの工場。まず目に付いた?のは何もないフラットなフローリング。かなり広い。そうですね、ここに生地を広げて作業するんですからね。



これが高周波ミシン。糸で縫合するのではなく、熱で溶かし、張り合わせる事ができる。テント業界では必須な機械。見たことのない私は「どんなんですか?」と興味心身。

今後の副業? テント生地を用いたかばんがたくさん作成されていた。頑丈そうでも汚れもつきにくく実用度まちがいなし。今後の売り方が疑問だそう。青年部のみなさん、なにかいい案を?



加藤テント商会
創業30年余り
店舗テント全般、野外階段の幌、オーニング（巻き取り式テント）トラック幌、工場まじきりカーテン、レンタルテント全般。